

2027 年度本部委員会功労賞候補者推薦について

日本分析化学会は、多年にわたって本会本部委員会及び小委員会で活動し、本学会を通じて分析技術の発展に貢献された方を表彰して「本部委員会功労賞」を贈呈します。

下記の本部委員会功労賞規程により 2027 年度本部委員会功労賞候補者を募集します。関係各位におかれましては、適任者がおられましたらご推薦くださいますようお願い申し上げます。

『本部委員会功労賞規程』

- 第 1 条 本会に本部委員会功労賞を設け、多年にわたり公益社団法人日本分析化学会本部委員会および小委員会で活動し、本学会を通じて分析技術の発展に貢献した者に、これを贈呈する。対象となる委員会は別紙に定める。
- 第 2 条 本部委員会功労賞は、賞状を年会または討論会において贈呈する。
- 第 3 条 本部委員会功労賞候補者の推薦者は、本部委員会委員長及び現在休止・廃止している委員会については元委員長とし、その委員会に所属する者または過去に所属した者を推薦することができる。複数の委員会の活動を合わせて申請することができる。
- 第 4 条 前条によって推薦される者は、本会正会員にして、申請する年の 2 月末日をもって、合計 10 年以上第 1 条の活動に従事した者とする。
- 第 5 条 候補者の推薦に際しては、次の (1)～(2) に規定する書類を電子媒体にて、指定された日までに本会に提出するものとする。
- (1) 推薦書 (2) 被推薦者理由書 (いずれも本会所定の用紙)
- 第 6 条 各委員会からの申請は各年で 3 件以下とする。授賞数は 10 件以下とする。
- 第 7 条 本部委員会功労賞候補者の選考は、本部委員会功労賞審査委員会において行う。審査委員は、理事会が本会副会長及び庶務担当理事より 5 名を選考し、会長がこれを委嘱する。委員長は、筆頭副会長又は表彰業務担当副会長とする。

(別紙) 本部委員会功労賞の対象となる委員会

標準物質委員会、技能試験委員会、分析化学技術者教育企画委員会、分析士認証委員会、ぶんせき編集委員会、分析化学編集委員会、Analytical Sciences 編集委員会、X-ray Structure Analysis Online 編集委員会、広報委員会、会員・広報協議会、学術振興協議会、学術会合協議会及びそれらに属する小委員会

(以下省略)

☆

☆

- 1) 2027 年度本部委員会功労賞授賞式は、2027 年 9 月 21 日 (火) 第 76 年会 (新潟大学) において行う予定です。
- 2) 推薦書類 (推薦書、被推薦者理由書：本会所定の用紙) は、下記期限までに提出してください。
- 3) 推薦期限：2026 年 12 月 31 日
- 4) 推薦書類提出先：日本分析化学会本部委員会功労賞係 (E-mail: shomu@jsac.or.jp)
- 5) 所定の書類は、<https://www.jsac.jp/applications/> からダウンロードしてください。

第48回分析化学における 不確かさ研修プログラム —受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるよう演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする、

ことを特徴としています。講師が一方向的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

本セミナーはハイブリッド型で開催しますので、オンライン参加も可能です。遠方のお客様もお気軽にご参加ください。

ハイブリッド型の詳細は、日本電気計器検定所のホームページをご覧ください。

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html

期日 2026年12月10日(木)・11日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町」駅徒歩浦口(東口)から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田」駅A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者 不確かさの計算方法を初歩から学びたい方・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられるさまざまな確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因を考察するグループ演習)

11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)
12. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)

第2日(9.30~16.30)

《初日のおさらい》

13. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
14. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
15. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
16. 演習：間違い探し
17. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
18. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
19. 確認テスト

募集定員 24名(定員に達し次第、締め切ります)

参加方法 会場参加またはオンライン参加のいずれかを選択できます。

申込締切 2026年12月3日(木)

受講料 会員64,900円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外75,900円
※テキスト代、消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことの受講証明書を主催団体から発行します。

合格証明書の発行 確認テスト合格者には、日本電気計器検定所から合格証明書を発行します。

申込方法 次のいずれかの方法で申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

1. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)の「申込みフォーム」に必要な事項を入力してください。
2. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください(送信先E-mail: kosyukai-ky@jemic.go.jp)。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。①JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③定期刊行物の発送、購読期限および会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合せ先 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所JEMIC計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail: kosyukai-ky@jemic.go.jp〕

第423回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

近年、医薬品モダリティの多様化が急速に進み、求められる分析内容も高度化・複雑化しています。HPLCおよびLC/MS/MSは汎用性が高く、高感度・高選択性を有することから、創薬研究から開発、品質評価に至るまで幅広い領域で基盤技術として重要な役割を担っています。本例会では、核酸医薬や抗体薬物複合体(ADC)を中心に、現場で実践可能な最新の分析技術や具体的な応用事例をご講演いただきます。

期日 2026年9月28日(月) 13.00~17.00

会場 (株)島津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町1-3, 交通: ①地下鉄: 都営新宿線小川町駅, 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅, 東京メトロ丸の内線淡路町駅のB7出口より徒歩6分, 東京メトロ銀座線神田駅より徒歩10分, ②JR 神田駅西口より徒歩10分〕

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

講演主題 医薬品モダリティの多様化に対応する HPLC 分析, LC/MS/MS 分析

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(株)東レリサーチセンター 櫻井 周
(LC 分析士初段, LC/MS 分析士二段)

1. 多様化するモダリティとその周辺分野に対する LC/MS/MS 分析の事例紹介 (13.05~13.15)

(株)東レリサーチセンター 櫻井 周
(LC 分析士初段, LC/MS 分析士二段)

2. モダリティ多様化に対応したカラム・分離手法 (13.15~13.50)

(株)クロマニックテクノロジーズ 小山隆次
(LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段)

3. LC-MS/MS を用いた抗体薬物複合体(ADC)の包括的定量分析 (13.50~14.25)

(株)住化分析センター 松井誠一
(LC 分析士初段, LC/MS 分析士二段)

4. ホスホロチオアートオリゴ核酸とその不純物の分離改善 (14.25~15.00)

((一財)化学物質評価研究機構) 坂牧 寛
(LC 分析士三段, LC/MS 分析士二段)

休憩 (15.00~15.15)

5. オリゴヌクレオチドの分離条件最適化から不純物解析までの実践事例 (15.15~15.50)

(株)島津製作所 早河瑞希
(LC 分析士二段)

6. 核酸医薬品の不純物分析 (15.50~16.25)

(株)東レリサーチセンター 高尾英伸
(LC/MS 分析士初段)

7. 総括「医薬品モダリティの多様化に対応する HPLC, LC/MS/MS」(16.25~17.00)

(東京理科大学) 中村 洋
(LC マイスター, LC/MS マイスター)

参加費 ①学生: 1,000 円, ②LC 懇・個人会員: 2,000 円, ③LC 懇・団体会員: 3,000 円, ④後援学会・個人会員: 4,000 円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500 円, ⑥その他: 5,000 円(領収書の発行は、送金月日にかかわらず2026年9月29日以降となります。請求書は発行しません)。

参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。なお、日本薬学会会員として申込みされる方は、参加申

込 URL の後援学会欄に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込みください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお待ちください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 2026年9月18日(金)
(入金締切時刻: 15時まで)

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC 会員・協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第423回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
- 参加費の納入が確認できた方には、2026年9月21日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。なお、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/gjQhbx6NL21ad7Be9>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341、口座名義: シヤ)ニホンブンセキガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 (株)東レリサーチセンター 櫻井 周
[E-mail: amane.sakurai.d5@trc.toray]

2026年北海道地区化学教育研究協議会

主催 日本分析化学会北海道支部、日本化学会北海道支部、日本化学会教育・普及部門

共催 北海道教育大学

後援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道小学校理科研究会、北海道中学校理科教育研究会、北海道高等学校理科研究会(依頼予定含む)

会期 2026年11月7日(土)10時~16時30分

会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト〔北海道札幌市中央区北5条西5丁目7 sapporo55 4階〕での対面形式およ

び Zoom によるハイブリッド開催

対象 小学校から大学までの教員，化学教育に関心のある大学（院）生

内容

「化学分野における小・中・高・大の系統性を踏まえた探究的学びの質向上を目指して—実験・観察を基盤とした「深い学び」と主体性の育成—」（福岡教育大学）伊藤克治先生

提言：「理科（化学）教育における小・中・高・大学での取り組み」を4件ほど予定（提言20分、質疑応答5分程度）
自由討論：「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する討論」（1時間程度）

参加費 無料

懇親会費（希望者） 4,000円（五修堂 札幌市中央区南1条東2丁目）

参加申込方法 Google フォームが電子メールで申し込みください。名簿作成の関係で10月26日（月）締切としますが、協議会につきましては「当日参加」も可能です。

Google フォーム

<https://forms.gle/bDu5v5cNwWR85zP49>

参加申込締切 10月26日（月）

定員 80名

連絡先 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院材料科学部門 坂入正敏〔電話：011-706-7111, E-mail：msakairi@eng.hokudai.ac.jp〕

2026年度LC/MS分析士 二段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。

日時 2026年11月9日（月）14時～16時

会場 株式会社津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町1-3, 交通：（地下鉄）都営新宿線「小川町」駅、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線「淡路町」駅のB7出口より徒歩6分、東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩10分、（JR）「神田」駅西口より徒歩10分〕
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行できるレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規定されます。LC/MS分析士においては「LC/MS装置とそれぞれのパーツの内容や原理の理解が十分にある。LC/MSを用いた試験について、正確な操作を行うことができる。簡単な部品の交換が自分で行える。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約40%含まれます。

受験料 7,700円（合格者は登録料4,400円を別途申し受けます）。先着65名。請求書の発行はいたしません。入金確認後、10日程度で受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われたLC/MS分析士初段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ（<https://forms.gle/L28nwF3TmTnb95Y86>）にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 10月26日（月）15時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金1754341、口座

名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会〔シヤ）ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー〕。なお、一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、当方の判断で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合先 （公社）日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

2026年度LC/MS分析士 初段認証試験実施のお知らせ

標記につき、記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。会場へのお問い合わせは、ご遠慮ください。

日時 2026年11月16日（月）14時～16時

会場 株式会社津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町1-3, 交通：（地下鉄）都営新宿線「小川町」駅、東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅、東京メトロ丸の内線「淡路町」駅のB7出口より徒歩6分、東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩10分、（JR）「神田」駅西口より徒歩10分。〕
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

初段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「指示をすれば一人で分析できるレベル。当該分析・測定技術に関する基礎的知識および関連する法令に関する知識を有する。」と規定されます。LC/MS分析士においては「クロマトグラフィーやLC/MSに関する基礎的知識と原理に対する理解が十分にある。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約50%含まれます。

受験料 6,600円（合格者は登録料3,300円を別途申し受けます）。請求書の発行はいたしません。入金確認後、10日程度で受験番号をお知らせします。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ（<https://forms.gle/VU4ETAbAT1Tx6Ru1A>）にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 11月2日（月）15時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金1754341、口座名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会〔シヤ）ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー〕。一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、当方の判断で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合先 （公社）日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

第425回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 （公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援 （公社）日本化学会、（公社）日本農芸化学会、（公社）日本分析化学会

環境負荷の低減や昨今の社会情勢の変化を背景として、HPLC分析にはさらなる効率化が求められています。

本例会では、溶離液使用量の削減、高速分析、高感度化などを実現する各種ソリューションや技術をご紹介します。

期日 2026年11月20日（金）13.00～17.00

会場 北とぴあ・902会議室〔東京都北区王子1-11-1, 交通：JR京浜東北線「王子」駅北口より徒歩2分、地下鉄南北線

「王子」駅下車 5 番出口直結、都電荒川線「王子駅前」駅より徒歩 5 分]

<https://www.hokutopia.jp/>

講演主題 HPLC 分析の効率化
講演

講演主題概説（オーガナイザー）（13.00～13.05）
（ジーエルサイエンス(株) 太田茂徳
（LC 分析士二段）

1. HPLC 分析の効率化に向けた超純水の最適化（13.05～13.40）

（メルク(株) 石井直恵
（LC 分析士二段）

2. 効率化を目指したカラムサイズの最適化とそのノウハウ（13.40～14.15）

（(一財)化学物質評価研究機構) 坂牧 寛
（LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段）

3. 充填剤選択による効率化—コアシェル粒子と異種固定相の活用—（14.15～14.50）

（(株)クロマニックテクノロジーズ) 小山隆次
（LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段）

休憩（14.50～15.10）

4. 装置から考える HPLC 分析の効率化（15.10～15.45）
（(株)島津製作所) 松田倫太郎
（LC 分析士二段）

5. 受託分析機関における LC-MS 分析の高感度化及び効率化（15.45～16.20）

（ジーエルサイエンス(株) 滝埜昌彦
（LC/MS 分析士二段）

6. 総括「HPLC 分析の効率化」（16.20～16.55）

（東京理科大学) 中村 洋
（LC マイスター, LC/MS マイスター）

参加費 ①学生：1,000 円, ② LC 懇・個人会員：2,000 円, ③ LC 懇・団体会員：3,000 円, ④後援学会・個人会員：4,000 円, ⑤後援学会・団体会員：4,500 円, ⑥その他：5,000 円（領収書の発行は、送金月日にかかわらず 2026 年 11 月 21 日以降となります。請求書は発行しません）。

参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。なお、日本薬学会会員として申込みされる方は、参加申込 URL の後援学会欄に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込みください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお待ちください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します（会費 5,000 円）。参加申込締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 2026 年 11 月 12 日（木）
（入金締切時刻：15 時まで）

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先（電話番号）、LC 会員・協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第 425 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付（自動返信）」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費

は、返金いたしません。

- 参加費の納入が確認できた方には、2026 年 11 月 13 日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。なお、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
（→例会ごとに振り込んでください）
- 複数参加者の参加費の同時振込
（→参加者ごとに振り込んでください）
- 年会費や他の費用との合算振込
（→費目ごとに振り込んでください）

申込先 <https://forms.gle/mPpmW7hZSPS86sqTA>
（学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載）

銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）1754341、口座名義：シヤ）ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 ジーエルサイエンス(株) 太田茂徳
〔E-mail：sig-ota@glsc.co.jp〕

第 46 回キャピラリー電気泳動シンポジウム （SCE2026 OSAKA）

主催 SCE2026 実行委員会 日本分析化学会電気泳動分析研究懇談会

期日 2026 年 11 月 26 日（木）・27 日（金）

会場 大阪大学会館〔大阪府豊中市待兼山町 1-13、交通：阪急電車宝塚線「石橋阪大前」駅下車、東へ徒歩約 15 分、大阪モノレール「柴原阪大前」駅下車、北西へ徒歩約 15 分〕

ホームページ <https://www.sce2026.org/>

連絡先 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町 1-3 第 46 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE2026）事務局〔電話：06-6850-6288, E-mail：sce2026osaka@gmail.com〕

第 32 回 LC & LC/MS テクノプラザ ～講演・展示募集と参加申込～

主催（公社）日本分析化学会・LC 研究懇談会

共催 LC シニアクラブ

後援（公社）日本分析化学会、（公社）日本化学会、（公社）日本農芸化学会

LC および LC/MS を日常的に利用しているオペレーター、技術者の方々の情報交換、問題解決・相互交流の場として、標記テクノプラザを開催します。本プラザの特色は、従来の機器・カタログ展示や一般講演に加え、現場の共通の悩みをその都度「集中テーマ」として取り上げ、実例を材料として具体的に議論することです。問題を解決できた例、問題提起の段階でとどまっている例、これから問題になりそうな事柄などが、いずれも「集中テーマ」の対象になります。この会の主要な目的の一つは、発表していただいた個々の問題を参加者全体の共通の認識にすることにあります。いたがって、未解決の問題や失敗例でも一向に構いません。役に立つ情報であれば、いわゆるオリジナリティーには必ずしも拘りません。なお、本テクノプラザの講演者は、次年度の「液体クロマトグラフィー努力賞」の審査対象となります。

会期 2027年1月19日(火)・20日(水)

会場 北とぴあ・ペガサスホール(15F)〔東京都北区王子1-11-1, 電話: 03-5390-1100, 交通: ①JR 京浜東北線「王子」駅北口より徒歩2分, ②地下鉄南北線「王子」駅下車5番出口直結, ③都電荒川線「王子駅前」駅より徒歩5分。〕
URL: <https://www.hokutopia.jp/>
情報交換会: 北とぴあ・レストラン VIEW & KITCHEN QUAD17(17階)

A 講演募集

A-1 発表形式 口頭発表およびポスター発表(横幅90cm×高さ180cm)

A-2 講演募集分類 ①集中テーマ:(A) 前処理における諸問題, (B) 分離における諸問題, (C) 検出・データ解析における諸問題, (D) 未解決の諸問題, 教訓の失敗例, ②一般テーマ。

A-3 講演申込先 LC懇のホームページから, 1演題ごとに下記URLに必要事項を明記してください。

講演申込 URL

<https://forms.gle/hsnRbZVv9k8bb3bt6>
(このURLからの参加申込はできません)

A-4 講演申込締切 11月26日(木)

A-5 講演要旨締切 12月21日(月)

A-6 講演要旨執筆要領

1. 日本語はMS明朝, 英数字はCenturyで入力。
2. A4判白紙を縦に使用し, 横17cm, 縦25cmの枠内(標準は1行38字, 1枚38行)にワープロで1~2枚作成してください。要旨集はA4判で作製します。
3. 講演番号記入(14ポイント)欄として, 1枚目の左上隅(左8字×4行分)は空白としてください。
4. 講演題目(強調14ポイント)を書き, 1行空けて発表者の所属と氏名を書く(強調12ポイント)。所属はカッコ内にまとめ, 氏名にはふりがなを, また発表が連名の場合には, 発表者の氏名の前には○印をつけてください。
5. 所属・氏名の下を1行空けて, 目的, 実験, 結果, 考察などに分けて本文(10.5ポイント)を書いてください。
6. 2枚目は最上段から書いてください。

A-7 講演要旨提出先 Word版とPDF版を電子メール(nakamura@jsac.or.jp)に添付してください。

B 展示募集

B-1 機器・カタログ展示 横幅180cm, 奥行き60cm, 高さ91cmの台を使用します。1小間につき, 機器展示は30,000円, カタログ・書籍展示は10,000円。展示ご希望の方は, ①希望する展示の種類, ②申込小間数, ③連絡先(電話)を明記し, 12月21日(月)までにお申し込みください。なお, 展示申込は先着順に受付, 満小間になり次第締切ります。

B-2 展示申込先 URL

<https://forms.gle/cbGQWtgaZv2wgSHM8>

B-3 展示者も参加登録が必要です。

C 参加申込

C-1 参加登録費 一般6,000円, 学生3,000円。

C-2 情報交換会 1月19日(火)17時30分より(参加費5,000円)

C-3 参加申込先 プログラムは編成が終わり次第, LC懇ホームページに掲載しますので, 下記URLより参加登録申込, 情報交換会参加申込をしてください。

参加申込 URL

<https://forms.gle/rXPE7FeYTYjecwEr9>

C-4 参加申込締切日 1月8日(金)(入金締切時刻:15時まで)

C-5 銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)0802349,

口座名義: シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

主催者提供講演

啓育講演(東京理科大学)中村 洋, 2026年度CERIクロマトグラフィー分析賞受賞講演, 2027年LC努力賞受賞講演, 2026年LC科学遺産認定講演, 2025年ベストオーガナイザー賞表彰, 第31回テクノプラザベストプレゼンテーション賞表彰, 2026年度電子ジャーナル(第12号, 第13号)優秀者講演(専門技術賞, 公益情報賞)など各賞受賞講演・表彰なども予定されております。

問合先 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 第32回LC & LC/MSテクノプラザ実行委員長 中村 洋〔E-mail: nakamura@jsac.or.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

日本放射化学会第 70 回討論会 (2026)

主催 (一社)日本放射化学会
期日 2026 年 9 月 28 日 (月)~30 日 (水)
会場 福島大学
ホームページ
<http://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/sorc2026>
連絡先 〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 福島大学共生
システム理工学類内 日本放射化学会第 70 回討論会 (2026)
事務局 [E-mail : <https://forms.gle/2jc3aAxDjGs6w19>]

第 38 回高分子学会 NMR 講座 基礎と応用コース

主催 高分子学会 NMR 研究会
期日 2026 年 9 月 29 日 (火)
会場 機械振興会館 6 階 6-67 会議室
ホームページ
<https://member.spsj.or.jp/event/index.php?id=859>
連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビ
ル 6 階 (公社)高分子学会事業課 石津光暉
[電話 : 03-5540-3770, E-mail : resg2@spsj.or.jp]

表面分析実践講座エキスパート 2026 「実践！最新走査電子顕微鏡を用いた高度な実習」

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 2026 年 10 月 22 日 (木)・23 日 (金)
会場 東北大学青葉山キャンパス 日本電子×東北大高度マテ
リアル分析共創研究所
ホームページ
<https://www.jvss.jp/ja/activities/06/detail/00025.html>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル
5 階 (公社)日本表面真空学会事務局
[電話 : 03-3812-0266, E-mail : office@jvss.jp]

プラズマ分光分析研究会第 129 回講演会 —半導体産業を支える超微量元素分析の動向— (若手会『最先端で輝く先輩たちからの メッセージ』併催)

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2026 年 10 月 23 日 (金)
会場 東京大学本郷キャンパス 化学講堂
ホームページ
<https://plasma-dg.jp/seminar/129/program129.html>
連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 東京薬
科大学生命科学部分子生命科学科生命分析化学研究室内 プ
ラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子 [電話 : 042-816-
3001, E-mail : ozeki@plasma.es.titech.ac.jp]

2026 年度水素・燃料電池材料研究会講座 水電解水素製造技術の最前線 : AWE, PEMWE, AEMWE

主催 高分子学会 水素・燃料電池材料研究会
期日 2026 年 11 月 6 日 (金)
会場 上智大学中央図書館
ホームページ https://www.spsj.or.jp/group/group_490.html
連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビ
ル (公社)高分子学会 水素・燃料電池材料研究会
[電話 : 03-5540-3770, E-mail : resg2@spsj.or.jp]

第 16 回イオン液体討論会

主催 イオン液体研究会
期日 2026 年 11 月 11 日 (水)~13 日 (金)
会場 上智大学四谷キャンパス
ホームページ https://www.ilra.jp/16th_jsil/index.html
連絡先 イオン液体研究会事務局 [E-mail : ionicliquidoffice@ilra.jp]

第 37 回クロマトグラフィー科学会議

主催 クロマトグラフィー科学会
期日 2026 年 11 月 11 日 (水)~13 日 (金)
会場 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂
ホームページ
<https://www.chem.tokushima-u.ac.jp/B1/scs37/index.html>
連絡先 〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学理工
学部 高柳俊夫 [電話 : 088-656-7409, E-mail : toshio.takayanagi@tokushima-u.ac.jp]

日本希土類学会第 44 回講演会

主催 日本希土類学会
期日 2026 年 11 月 13 日 (金)
会場 崎陽軒本店会議室 1 号室
ホームページ <https://www.kidorui.org/lecture.html>
連絡先 〒680-8552 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学工学
部化学バイオ系学科 増井研究室内 日本希土類学会 増井
敏行 [電話 : 0857-31-5264, E-mail : office@kidorui.org]

第 39 回日本吸着学会研究発表会

主催 日本吸着学会
期日 2026 年 11 月 17 日 (火)・18 日 (水)
会場 横浜市開港記念会館
ホームページ <https://www.j-ad.org/annual-meeting39/>
連絡先 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
横浜国立大学大学院工学研究院 機能の創生部門 稲垣怜史
[電話 : 045-339-3691, E-mail : inagaki-satoshi-zr@ynu.ac.jp]

KISTEC Innovation Hub 2026 (神奈川県立産業技術総合研究所 研究成果発表交流会)

技術とつながりをイノベーション創出へ

主催 (地独) 神奈川県立産業技術総合研究所
期日 2026年11月19日(木)、20日(金)、12月7日(月)
会場 KISTEC 海老名本部、殿町支所、溝の口支所および横浜
(波止会場館) (日程により会場変更あり)
ホームページ <https://www.kistec.jp/inno-hub/>
連絡先 〒243-0435 神奈川県海老名市下今泉 705-1 (地
独) 神奈川県立産業技術総合研究所 企画部情報戦略課連携
広報グループ [電話: 046-236-1500, E-mail: sm-innovation-
hub@kistec.jp]

日本膜学会膜シンポジウム 2026 拡がりゆく膜

主催 日本膜学会
期日 2026年11月19日(木)・20日(金)
会場 産業技術総合研究所つくば中央事業所共用講堂
ホームページ
<https://www.maku-jp.org/conference/article/00608OdC>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-26-5 扇屋ビル
702 日本膜学会事務局 [電話: 03-3815-2818, E-mail:
membrane@mua.biglobe.ne.jp]

第24回医用分光学研究会

主催 医用分光学研究会
期日 2026年11月26日(木)・27日(金)
会場 資生堂グローバルイノベーションセンター
ホームページ
<https://new.express.adobe.com/webpage/Wf538bPHF7Jod>
連絡先 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島 1-2-11 第24
回医用分光学研究会実行委員会 実行委員長 江川麻里子
[電話: 070-3859-1346, E-mail: medspec@shiseido.com]

実用表面分析セミナー 2026

主催 (公社) 日本表面真空学会関西支部
期日 2026年12月2日(水)
会場 神戸大学百年記念館六甲ホール
ホームページ
https://jvsskansai.smoosy.atlas.jp/ja/kansai_jitsuyou27
連絡先 〒566-0072 大阪府摂津市鳥飼西 5-1-1 (株) カネカ
テクノロジーサーチ 澤田大輔 [電話: 072-653-8301, E-mail:
Daisuke.Sawada@kaneka.co.jp]

nano tech 第26回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 イノベーションで未来のビジネスを拓く

主催 nano tech 実行委員会, (株) JTB コミュニケーションデ

ザイン

期日 2026年12月16日(水)~18日(金)
会場 東京ビッグサイト西・南ホール & 会議棟
ホームページ <https://www.nanotechexpo.jp/>
連絡先 〒105-8335 東京都港区芝 3-23-1 セレスティン
芝三井ビルディング 12F nano tech 実行委員会事務局 (株)
JTB コミュニケーションデザイン内) 長尾咲世
[電話: 03-5657-0760, E-mail: nanotech@jtbcom.co.jp]

訂正

本誌 2026 年第 8 号のお知らせ欄「第 20 回茨城地区分析技
術交流会」(p M5) において誤りがございましたので、下記の
とおり訂正いたします。
(訂正) p M5 右段 18 行目の「10 月 24 日(金)」を「9 月 25
日(金)」に訂正

「分析化学」年間特集「薬」論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では 2010 年より年間特集を企画してきました。
2027 年は「薬」をテーマとして募集を行います。

基礎・応用を含めた医薬品分析に関する“最新の知見”はも
ちろん、医薬品分析に関する“研究の背景”をまとめた総合論
文や総説を広く募集します。

さらに、薬のみならず、薬により引き起こされる生命現象
(例えば、薬の投与による生体内物質の変動など) を対象とし
た分析研究についても論文を募集します。薬と分析の関わりを
幅広い視点から捉え、分析化学が担う役割を社会に向けて発信
することを目的とします。

本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投
稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号
を除く「分析化学」第 76 巻(2027 年)合併号の冒頭に掲載す
る予定です。国内外、産学官を問わず、「薬」に関わる分析化
学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお
待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文原稿締切: 2026 年 11 月 13 日(金) (第 2 期)

「分析化学誌」特集 “イオンクロマトグラフィーの技術進展と 新規開発”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、イオンクロマトグラフィー研究
懇談会(IC 懇)と共同で「イオンクロマトグラフィーの技術
進展と新規開発」と題した特集を企画しました。

本特集号では、方法論の新規開発、試料の前処理・後処理技
術、性能向上技術など、IC に関わるイオン分離定量法だけ
でなく、IC の幅広く様々な分野への応用や適用例に関する論文
も募集しております。幅広い分野からの論文投稿をお待ちして
います。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2026 年 8 月 28 日(金)

特集論文原稿締切: 2026 年 10 月 16 日(金)

「分析化学」編集委員会特集 「産学官連携で広がる分析化学」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2027年度（第76巻）の「編集委員会特集」のテーマは、『産学官連携で広がる分析化学』に決定いたしました。高度に複雑化・多様化している社会課題の解決に向けて、専門分野や組織の異なる研究者同士が協働して研究を推進することの重要性がより一層高まっています。上記状況に鑑み、産学官、産学、学官、および産官での連携研究や、今後共同研究に発展させたい研究成果に関する論文を募集いたします。社会実装に至った研究開発事例、実用化を見据えた分析技術や分析装置・デバイスに関する研究成果、今後産学官での連携に発展させたい研究シーズに関する内容など、産学官連携研究の輪を広げる多数の論文の投稿をお待ちしております。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年10月3日（土）

特集論文原稿締切：2026年12月5日（土）

初めて書く論文は母語の日本語で！ 「第25回初執筆論文特集」募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際

にお知らせします。

- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解

説記事

- 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することにいたしました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P : 印刷ページ数) (単位: 円)

会員の場合: $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律 80,000 円)

会員外の場合: $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律 90,000 円)

* 上記に消費税がかかります。

『ぶんせき』再録集 vol. 1, 2 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円(税込み)のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用方法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会へのアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。



日本分析化学会の機関月刊誌『ぶんせき』の再録集 vol. 2 が出版されました！ 初学者必見！ 正しく分析するための241ページです。

本書は書籍化の第二弾として、「入門講座」から分析試料の取り扱いや前処理に関する記事、合計36本を再録しました。

『ぶんせき』では、分析化学の初学者から専門家まで幅広い会員に向けて、多くの有用な情報を提供し続けています。これまで掲載された記事には、分析化学諸分野の入門的な概説や分析操作の基礎といった、いつの時代でも必要となる手ほどきや現役の研究者・技術者の実体験など、分析のノウハウが詰まっています。

本書は下記の二章だてとなっています。

- (1 章 分析における試料前処理の基礎知識)
 1. 土壌中重金属分析のための前処理法
 2. 岩石試料の分析のための前処理法
 3. プラスチック試料の分析のための前処理法
 4. 金属試料分析のための前処理法
 5. 分析試料としての水産生物の特徴と取り扱い
 6. 食品分析のための前処理法
 7. Dried blood spot 法による血液試料の前処理
 8. 生体試料のための前処理法 (液-液抽出)
 9. 生体試料のための前処理法 (固相抽出)
 10. 環境水試料の分析のための前処理法
 11. 大気中揮発性有機化合物分析のための前処理法
 12. 放射性核種分析のための前処理法
 13. 脂質分析のための前処理法
 14. 糖鎖分析のための試料前処理
 15. イムノアッセイのための前処理法
 16. 加速器質量分析における超高感度核種分析のための試料前処理法
 17. 生元素安定同位体比分析のための試料前処理法
 18. セラミックス試料分析のための前処理法
- (2 章 分析試料の正しい取り扱いかた)
 1. 生体 (血液)
 2. 生体 (毛髪)
 3. 金属 (非鉄金属)
 4. 金属 (鉄鋼)
 5. 食品 (酒類)
 6. 医薬品 (原薬・中間体・原料)
 7. 海水 (微量金属)
 8. 考古資料
 9. 海底下の試料 (地球深部の堆積物および岩石)
 10. 岩石
 11. 食品 (農産物の残留農薬)
 12. ガラス
 13. 環境 (陸水)
 14. 温泉付随ガス
 15. 透過電子顕微鏡観察の試料調整
 16. 環境 (ダイオキシン類)
 17. 高分子材料
 18. 沈降粒子

なお、『ぶんせき』掲載時から数年が経過しているため、記事の中には執筆者の所属も含め、部分的に現在の状況とは異なる内容を含むものがあるかもしれません。本書では、各記事の『ぶんせき』掲載年を明記することで、再録にともなう本文改稿を割愛しました。これらの点については、執筆者および読者の方々にご了承いただきたく、お願い申し上げます。

本シリーズが化学分析の虎の巻として多くの方に活用されることを願ってやみません。